



## 捨てない仏

皆さんは、自分のしたことを後悔することはありますか？ 私はよくあります。

相手の事情もよく知らないまま、つい腹を立ててしまった時。そんなつもりはないのに、思わず人を傷つけるような言葉を発してしまった時。自分の振る舞いに嫌な思いをした人がいることを、後で知った時・・・。後になって頭を抱えるのですが、時すでに遅し。そんなことを数限りなく繰り返しながら生きてきました。

親鸞聖人の和讃に、次のような一句があります。



願力無窮にましますば 罪業深重もおもからず

仏智無辺にましますば 散乱放逸もすてられず

阿弥陀如来の願いの力はきわまりがなく、どんなに重い罪も抱きとられます。

阿弥陀如来の智慧はどこまでも広く、心乱れる愚か者も捨てられることはありません。

どうかしたくても、どうにもならない自分自身の愚かさ。しかし、取り返しのつかない行いを続ける私たちを、「阿弥陀如来は決して捨てない」と親鸞聖人はおっしゃいます。

この句について、浄土真宗本願寺派の前門主・大谷光真様が次のように書かれていました。

この和讃の「すてられず」は、とても新鮮な感じを受けます。・・・阿弥陀如来のみ心に救われる前に、私たちは自分で自分を捨ててしまうことがあるのではないかと思います。若い人から年配の方まで、自分の思い通りにならないことにぶつかったとき、人生、どうせこんなものと諦めたり、投げてしまい、自ら捨てられる存在になっているのではないのでしょうか。そういう人にこそ聞いていただきたいのが、阿弥陀如来のこの大きな「捨てない」というみ心です。

人生を真面目に振り返るのはつらいものです。思い出したくないこともたくさんあります。ですが、もし阿弥陀如来と一緒に、辛いことや自分の醜いところも見据える勇気もてるのではないのでしょうか。阿弥陀如来の大きなお慈悲の中では、自分を隠したりごまかしたりしなくていいのです。

『いまを生かされて』 大谷光真 著より

これからも多くの間違いを犯しながら生きていく、あるいは生きざるを得ない私たちにとって、この「捨てない仏さま」と出会うことこそが大切ではないのでしょうか（仏教用語では「摂取不捨の仏」といいます）。

時に私の思い上がりを正し、時に落ち込んだ私を優しく励ましてくださる。摂取不捨の阿弥陀様と出会うということは、時に厳しく時に温かい“仏さまのものさし”で、自分自身を振り返る目をいただくことでもあるのです。

